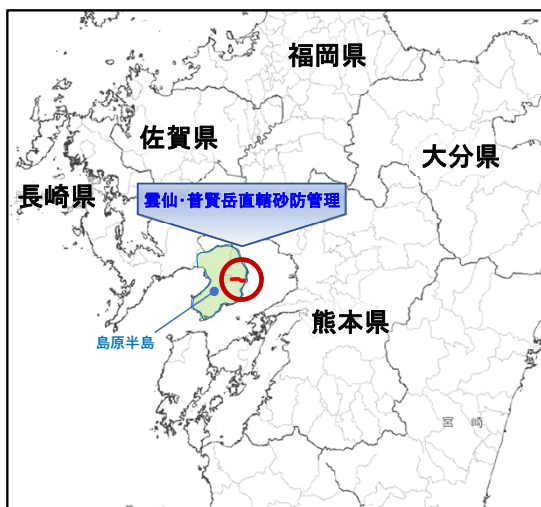




雲仙・普賢岳直轄砂防 の取り組みについて

長崎県
『雲仙・普賢岳』



提供:NP0法人土砂災害防止広報センター【平成5年9月撮影】



提供:島原市【平成3年5月撮影】



【令和3年2月撮影】

これまでの経緯と取り組み

- ☑ 雲仙・普賢岳は、平成2年11月に噴火活動を再開し、噴火に伴う火砕流や土石流によって甚大な被害が発生しました。
- ☑ 平成5年4月より、国による直轄砂防事業に着手し、水無川、中尾川、湯江川で砂防堰堤や導流堤等の砂防設備（合計95基）を整備し、**令和3年3月に完了**。（中尾川・湯江川は令和2年3月に県へ移管）
- ☑ 現在では、水無川の砂防設備を適切に維持管理するに、無人化施工による除石等や溶岩ドーム監視などの高度な技術が必要であることから、国による「**直轄砂防管理**」を実施している。

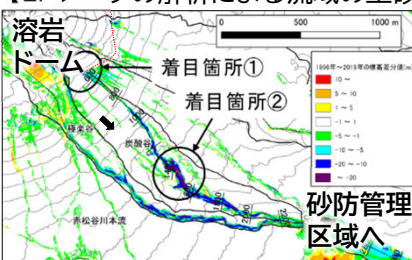
水無川の砂防管理内容



- 雲仙・普賢岳の砂防管理 -

流域監視

【LPデータの解析による流域の土砂移動特性把握】



【溶岩ドームの監視】



溶岩ドームの現地調査 監視カメラによる監視

無人化施工による除石



警戒区域内において無人化施工による除石工事を実施。

航空LP計測結果を用いた差分解析により、侵食量や堆積量の変化、土砂収支、侵食谷（ガリー）の発達状況等を把握する。

工事の安全対策のため、溶岩ドームの監視を実施。監視は各種センサーや監視カメラなどで実施。



警戒区域外で無人の施工機械を操作